

令和元年度 自己評価結果公表シート

認定こども園フレンド幼稚園

1. 本園の教育目標

のびのび、いきいきした保育の中で、未来を担う、「心」「知」「体」を育成します。  
 「心」友だちから相互に学びあい、友だちと幸せを共有できる心を育てます。  
 「知」自分で考える知力を育成し、子どもの無限の可能性を芽吹かせます。  
 「体」「心」「知」の基礎となる、元気に遊べる健康な体を育てます。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

教職員が評価項目に沿って、自己評価することによって、自ら客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善等に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
教育課程	園の教育課程の見直しをして、職員間で共通理解を行った。 茶道・歌唱指導の専門の先生を招き、園独自のカリキュラムをたて職員の資質の向上を図ることができた。
目標共有制度の導入	人事評価制度を適切に使用して、教職員一人ひとりのモチベーションを高めることができた。
教職員同士の連携	学年主任会議を定期的に行い、他学年との連携の充実を図ると共に、法人等からの情報伝達の間として、月1回全体会議を行った。
自園給食	食育の一環として、園内で調理した温かい給食を開始することができた。また、毎日の給食(写真)をホームページに掲載した。
子育て支援	親子教室(フレンドクラブ) 親子で幼稚園に登園することで、おどたちを作ったり、先生や園児と触れ合ったり、園の行事に参加したり、家庭では味わえない体験を提供した。 キンダーカウンセラー事業 公認心理師の先生を招き、子育てで育児不安等の悩みが解消できるような個別の相談を行った。 園庭開放 未就園児を対象とした園庭開放を行った。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取組むべき課題について、教職員が共通に理解し、各自が適切に自己点検、自己評価を行うことで、自己の課題、園としての方針を明確にすることができた。また、今年度中に目標に達しなかったところ、不十分であったところについて反省を行うと共に、今後も幼児の成長発達の良い援助ができるよう努力したいと考えている。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組む方法
教育・保育課程、環境の見直しと改善	幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づきながら、各学年で活動を精選し実践する。各学年行事についても、日々の生活に無理が生じないように各学年リーダーが中心となり、その制度見直し、内容ややり方などを改善する。新しい遊具・玩具などを購入するばかりではなく、手作りの遊具・玩具も活用して、遊び環境の更なる充実を図る。
教職員の資質の向上を図る	園内・園外の研修会には積極的に参加すると共に、研修会に参加することで園から付与されるポイント数が園の定めるポイント数以上に達するように努める。また、若年層教職員に対しては、ベテラン教職員がチームで支援しながら、園全体の資質の向上に努める。
特別支援教育	配慮を要する園児について、全教職員が正しく認識するため、公認心理師等による定期研修会に参加すると共に個別でもアドバイスを受けながら指導できる体制の強化を図る。更に、町からの巡回相談会等で情報を共有しながら、個に応じた支援に努める。
安全で安心な保育	日々の安全点検の実施と危険な箇所は全教職員で共有するとともに、ヒヤリハット事業は全体で確認し、事故の再発防止に努める。
健康管理	看護師を中心に、コロナ対策の研修を深め、健康安全教育に努める。
施設・整備設備	保育環境の充実の一環として、0歳児と1歳児の屋外遊び場を新設する。 コロナ感染防止対策の一環として、園舎入口に手洗い場を設置する。

6. 財務状況

公認会計士監査により、適正な運営がされると認められている。